



稲吟OB会会報

No. 27

稲吟会ホームページ <http://www.togin.org/>
稲吟 OB 会 <http://www.togin.org/alumni/> 稲吟会 <http://www.togin.org/toginkai/>

発行：2007（平成19）年8月31日 発行者：早稲田大学稲吟OB会事務局
編集発行責任者：高橋 優（稲吟OB会事務局） 通巻第27号「稲吟OB会NEWS」改題

■目次■ 会長・副会長挨拶 …1,2/News Flash…3/平成OB、頑張ってます！ …4,5/発表会
に向け、稲吟会ますます意気盛ん…6,7/OB会名簿の更新について…7/事務局から…8

会報発行によせて

稲吟OB会会長 小出秀文（昭48）

連日暑い日が続いています。皆様にはお変わりありませんでしょうか。平素のご無沙汰をお詫びしつつ、皆様のご自愛の上のご健勝・ご活躍を心からご祈念申し上げます。

さて、早速ながら、今年は(2007年・平成19年)、大学創立125周年の記念すべき節目の年であります。大学創設者大隈老侯の生涯125年説にちなんでの祝賀といわれています。あらためて私立学校の特色の意味あいといいましょうか、創設者の独自の主張のユニークさに私立学校らしさを痛感しています。学苑やその周年記念事業に寄せる想いにはそれぞれに温度差がありましようが、心の故郷を再確認いたす節目であることは間違いありません。その意味において、稲吟OB会もおそまきながら、第二弾の協賛行為を計画中です。追って、お願いの折は何卒よろしくお願いたします。

さて、連日の異常気象とも思える酷暑のなかで、考えている問題があります。それは環境問題です。企業にCO₂削減の強力な要請が行われています。私の職場の関係からも私立大学に同様の要請がありました。テレビ報道でも、ヨーロッパアルプスの氷河がこの十年ですっかり溶けていることやこのスピードでさらに温暖化が進むと南の島島は全て水没してしまい、世界的に大変なことになるというものでした。

深刻な人類共通の課題を前に、いよいよ日本の出番到来と考えたしだいです。自然との融和・共存を生きる知恵としてきた私たち日本人のいきざま・考え方を自信をもって世界に発信すべきと考えたしだいです。自然は克服すべき対象だった西欧や中東の考え方はやがて大量生産・大量消費を美德とする誤りをもたらしたとさえ考えますので、先ほどの結論に到りました。その延長上に実は吟詠や剣舞・扇舞の良さをもっともっと知っていただきたい、広めるべきと考えている昨今です。

いかに時代はかわってもアイデンティティは変えようがありません。学生時代の稲吟会での感動は、



いまでも私の活力の原点ですから。

結びに、都の西北の地に、嘉部幹事長はじめ大勢の現役後輩の皆さんが稲吟の旗のもとで青春の日々を力いっぱい走る姿があることを全国の稲吟OB会の皆さんに報告してご挨拶いたします。

平成19年8月千葉県市原の寓居にて

学生の活動へのご参加・ご協力をお願いします

稲吟OB会副会長 古賀 毅 (平4)

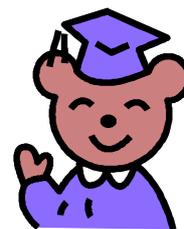
ここしばらく稲吟会の学内吟詠発表大会と稲吟OB会の定例総会を同日開催とし、懇親会は共催というかたちを採ってきましたが、2007年度は諸事情から分離開催となります。ではありますが、その両方に、ぜひ多数の会員の皆様にご参会いただきたいと思います。

稲吟OB会の催し等への参会者が漸減するようになったのは10年ほど前からでしたが、記念大会以外の学内吟詠発表大会に顔を出していただける会員はさらに少なくなりました。私たちの会は、体育各部と違って、卒業生や同窓会がコーチを派遣したり技術指導をおこなったりするものではありません。しかし、学生たちの年に1度の晴れの場を卒業生が訪れ、稲吟会の「いま」を体感し、後輩たちを激励することの意義はあらためて強調するまでもないことです。また、半世紀以上の歴史を有する稲吟会では、活動の内容や方針、慣習や雰囲気や学生気質は絶えず変化してきましたが、早稲田大学に

稲吟会という詩吟クラブが存在して活動をつづけ、受け継がれているという事実こそ、私たち同窓会が存在する根拠でもあります。定例総会を発表大会と同日に移したのは、参会者の漸減や特定世代への偏りを止め、同時に学生たちの活動への理解を深めていただくという趣旨でしたが、記念大会を境にその趣旨がまた遠のいてしまった印象です。

日常的に部室を訪れたり、練習に参加したりする卒業生も相当に少なくなったと聞いています。年代も職業も地域も多様な卒業生と触れ合うことが学生にとっても非常に有意義な機会であることは論を待ちません。大学の教壇に立って学生たちとかかわってみますと、彼らのバイタリティや前向きさに感心する反面で、視野の狭さや問題意識の不足、マナーや作法への見識など、主に社会的な面で能力・スキルの低下を感じます。残念ながら、稲吟会の学生にもそれらは共通するように思います。学生の活動は、彼らのやりたいようにやってもらうのが第一ではありますが、50年の伝統がそこに生きないのは残念ですし、何よりも彼らと私たち卒業生との連続性が失われる恐れが生じてしまいます。

もとより、交流を促し、参加を呼びかけ、定期的に顔を出して学生とのコミュニケーションを深めるのは私たち執行部の責務ではありますが、会員の皆様にも、可能な範囲で学生の活動に参加、ご助力いただければ幸いです。直接参加のみならず、祝電・差し入れ、あるいはメール1本でも学生は大いに励まされることでしょう。執行部としては、交流企画の実施に加え、ウェブサイトにおける現況の紹介を支援し、卒業生向けの郵便物に対して通信費を拠出しています。今後いっそうの充実を図ってまいりますので、皆様のご理解をいただければ幸いです。

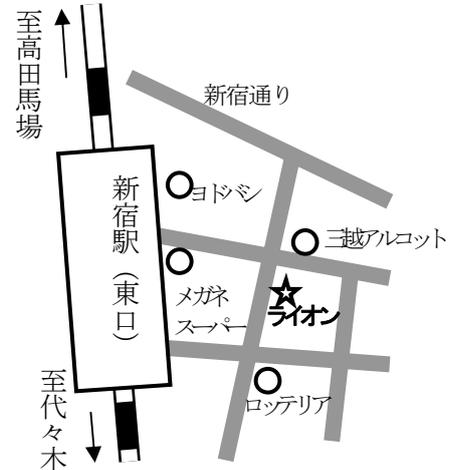


稲吟OB会・稲吟会交流行事のお知らせ

夏合宿に向けて合宿前練習に励む学生諸君との交流行事を企画しました。発表会に向けて意気あがる稲吟会の若者諸君を激励しつつ、夏の終わりに稲吟会の思い出を語り合いませんか？ 直前のご案内で大変恐縮ですが、ぜひご参加ください。

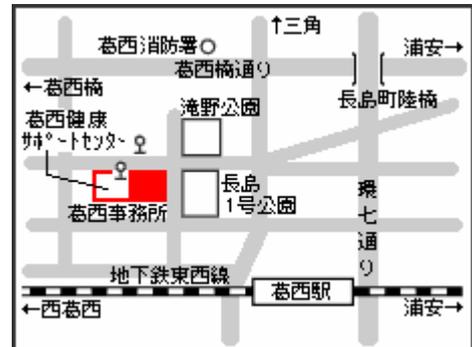
日時 2007年8月31日(火) 19:00~21:00
 場所 個室パーティールーム ビアキャビン ライオン
 (<http://r.gnavi.co.jp/g160501/>)
 新宿区新宿3-28-9 新宿ライオン会館6階
 Tel 03-3352-6606

事前の申し込み等とくに必要ありませんが、人数の大まかな把握をしたいので、出席を予定されている方は高橋(平4、masaru@togin.org)までお知らせください。詳細は下記を。
 (<http://www.togin.org/alumni/event/20070831koryu.html>)



稲吟会発表会は10月27日に葛西で開催

今年度の稲吟会の発表は10月27日(土)に開催されることになりました。場所は東京都江戸川区の葛西区民館(http://www.city.edogawa.tokyo.jp/institution/01kuyakusyo/kuyakusyo03_02.html、当団地下鉄東西線葛西駅下車、都営バス 葛西24甲・船堀駅⇄なぎさニュータウン・葛西区民館下車。右記地図参照)です。今回はOB会の総会とは分離しての開催となりますが、学生諸君の活動を盛り上げる意味でもぜひ発表会に参集し、学生を応援しましょう。時間・内容等の最新情報は、稲吟会のページ(<http://www.togin.org/toginkai/>)を参照ください。



(图中、「葛西事務所」が区民館)

稲吟会・夏合宿は千葉・岩井海岸

毎年恒例の稲吟会夏合宿ですが、今年は9月4日から9日にかけて、千葉県岩井海岸で行われます。東京からでも特急を使えば2時間足らずです。近くにお住まいのOB・OGの方も、あまり遠くない方も、練習に汗を流す学生諸君を激励しに駆けつけましょう！ コンパは8日(土)です。

期間 2007年9月4日(火)~9月9日(日)
 場所 民宿「大紺屋(おおごや)」
 〒299-2216 千葉県南房総市久枝727、TEL. 0470-57-2262
 web ページ <http://www.awa.or.jp/home/oogoya/index.htm>
 交通 電車…JR内房線岩井駅下車徒歩8分
 車……京葉道路、湾岸道路(もしくはアクアライン)ー館山自動車道
 ー君津ICー国道127号ー岩井

◆◆ OB会員近況 ◆◆

平成OB、頑張ってます！

平成年代のOB・OGが今春100名を超え、OB会全体の四分の一を占めるようになりました。そこで、各地にお住まいの平成OB・OGの方に最近のお仕事やご家庭の様子を伺いました。

新社会人としての一言



浅田俊祐（平19）

今春、早稲田を卒業し日本原子力発電に就職した。ヘルメットを被り汗まみれで原子力発電所施設内を点検する、全身ずぶ濡れになって消防訓練をする、敷地内設備点検ということで山歩きをする……。就活中の想像とはえらく違ったもので、社会人とは必ずしもスーツを着て街中で仕事をするわけではないようである。稲吟会のお陰で学生時スーツでなく学ランばかり着ていた自分としては作業服の方が馴染むし楽しく感じるが、作業服を着て現場で働く稲吟会OBはそう多くはないだろうし、ここまで田舎に住んでいるOBもそ

う多くはないのではなかろうか（最寄りの店まで車で20分位かかる上、周辺は熊や猪が出る）。仕事自体は特段厳しいわけでもなく職場環境も悪くは無いが、毎日休日状態だった学生時代の感覚が残っていて、毎日出勤するという当たり前のことが意外と辛かったりする。墮落というものは恐ろしい。

社会人になって稲吟会時代を振り返ってみると、よくまあ馬鹿なことばかりしてたもんだと思う。周りは変人ばかりで面白いながらも大変なことも多かったし、一步間違えるとサークルの存続に関わりそうなことも何度かあった気がする。そんなどうしようもないサークルだったけど、それでも卒会後に“ああ、あのころは楽しかったな”と純粋に思うことができるのが稲吟会というものなのだろう。

とりあえず今は仕事に対する不満などは口に出さず、稲吟会で学んだ忍耐と体力で頑張っ電力を供給してゆきたいと思います。学生時代にお世話になった方々、今後はOBとしてよろしくお願いします。

夢は稲吟二世代です！

鍛（樋口）智行（平14）・万里子（平15）

大変ご無沙汰しております。平成14年卒の鍛です。

私は卒会后、京都府庁に入庁し、現在では、京都府最北端の京丹後市にある保健所にて、日々公務に励んでおります。京丹後市とは、一昨年に初めてコンビニができて話題になったくらいの田舎町で、人も優しく穏やかでのんびりしたところです。名産と言えば、知る人ぞ知る「間人カニ」、困ることと言えば、冬に雪が多いとか、時々、野生の猿や鹿に遭遇することです。

さて、そんな私の今年の一大ニュースと言えば、自分の結婚です。相手は、同じく稲吟会の樋口万里子（平成15年卒）です。彼女は卒業後地元に戻り、今春までNHK熊本放送局に勤めていました。遠距離での交際が続いていたのですが、彼女の仕事が一区切りしたこともあり、



酒の勢いで結婚してしまいました。(姓も鍛から樋口へと変わりました)

現在は、九州と関西の文化の違いに日々驚いております。

例えば、男女の役割について。日常では、妻の尻に敷かれている私ですが、彼女の実家に帰ると立場が急変します。上座に座らされ、何か家の手伝いでもしようとする恐れ多いとばかりに断られます。九州では、男子厨房に入らずといった感じでそれが当たり前のようです。(ふだん、専業主婦の妻を手伝い、おひたしなどを作っている丹後の生活が嘘のようです) 彼女はというと、関西の嫁入り道具にたこ焼き機は必要ですかと、半ば本気で知り合いに聞いていました。

お互いの実家に帰るたびに、日常の細々とした生活の違いに最初はとまどいもあったのですが、最近ではそれも面白がっています。

今後の目標は、子供が生まれたら稲吟会員にすることです。その時には稲吟会は70周年でしょうか？その頃まで稲吟会も相変わらず健在であって欲しいと日々過ごしています。京都にお越しの際は、是非ともお立ち寄りください。

出産しました

田中ゆみ子 (平10)

俳優松平健に第一子が誕生した日の夕方に、私も出産しました。ベテラン助産師さんが「今晚は生まれないわね」とおっしゃった2時間後のことでした。

妊娠初期の頃から、助産師を目指している看護学生さんがお世話をしてくれました。産科での健診に付き添ってくれ、その上栄養指導、体操指導、家庭訪問などもしてくれ至れり尽くせりでした。彼女は私よりも10才近く若いのですが、その志の高さ、熱心さ、ひたむきさにいたく感心させられ、かつ自分が学生だった頃を思い出し、恥ずかしい限りでした。

5ヶ月目あたりで体重が増えすぎていることを指摘され、運動と実益と身辺整理をかねて大掃除を敢行しました。このとき本棚に「上」、「一」だけの本が多いことに気がつきました。学生の時に買ったものが殆どです。子供が成長してこの本棚を見たら「母は飽きっぽくて、向学心が無いのだな」と思われかねない(実際にそうなのですが)と危惧し、続きを入手すべく書店に向かいました。しかし、訳者が変わりタイトルまでもが変わってしまっているもの(「諸国民の富」→「国富論」)や既に絶版になっているものがあり、10年の経過をまざまざと思い知りました。

大掃除を張り切りすぎたのか、7ヶ月目あたりから「羊水」がやや少ないといわれ、安静にすごすように指示されました。それを良いことにますますだらだらと過ごしました。

結局「羊水過少」と診断され、陣痛促進剤による出産になりました。

出産直後、うつぶせに寝ることが出来る喜びを味わうのもつかの間、子供は3時間おきに授乳せねばなりません。それまで乳児の世話などしたことが無くわからないことだらけで、OBの早川夫人に相談にのっていただきました。(その節は有難うございました)

子供が生まれて変わったことといえば・・・

- ・ 子供と一緒に外出だと見ず知らずの人と会話が弾みます。
- ・ 近所の薬局で大量に粉ミルクや紙おむつを購入するので、店員さんがおまけをくれるようになりました。昨日は雑踏ですれ違い挨拶まで交わしました。
- ・ 昔は道行く乳幼児に何の興味も無かった私も、今では見かけるたびに「かわいいわね」「何ヶ月だろう？」などと思うようになりました。
- ・ 土日祝日でも平日と同じ時間に起きるようになります。

学生時代を反省し、子供に対する見栄で本を読み、店でおまけをもらい、規則正しい生活になり・・・と挙げていくと単なる近況報告で、「平成OB、頑張ってます！」の趣旨に合致しないようですが、例外ということでお許しください。

◆◆ 稲吟会だより ◆◆

発表会に向け、稲吟会ますます意気盛ん

9月4日からの夏合宿に先立ち、稲吟会は8月31日から合宿前練習を行います。10月27日に行われる発表会に向けて吟力向上に余念のない学生諸君に、その意気込みを寄せてもらいました。あわせて、この春に早大生となり、稲吟会の扉をたたいた新人諸君にも大学・稲吟会の印象を綴ってもらいました。

一年間の集大成「発表会」へ向けて

第52代幹事長 嘉部好洋（理3）

前期の活動は春の新入生勧誘活動から始まり、計11名の新しい会員を迎えることができました。その新しい仲間とともに普段の昼練習や、100キロハイク、早慶戦の手伝いなどのイベントと一緒に乗り越えていくうちに、いつの間にか前期納会を迎え、無事に前期の活動を終了することができました。

後期の活動は夏合宿を皮切りに、楽しむことが中心の前期とは異なった、詩吟の練習量の多い日々が続きます。偏に、稲吟会員の一年間の集大成である発表会を成功させるためです。

稲吟会に入会し、居続ける理由が各々異なる中で、全員が一つの目標に向かって努力することは非常に困難です。そのような中で、普段バラバラな方向を向いている稲吟会員が一つのものを作り上げていく瞬間があります、それが発表会です。発表会を一つの目標と定めて、普段以上に多くの練習を重ね、より良い演技を発表しようと互いに磨きをかけていく。その中で得られる達成感や喜びは他では得られないものであり、生半可な努力では得ることのできないものです。ゆえに練習内容や演目などを調整し、現役の間で主体的に運営する最後の大会を、一般外部の方にも自信を持って見せることのできるようなしっかりとしたものになりたいと考える次第です。現在は合宿地や会場との打ち合わせなど、下準備に追われる日々です。

また、発表会はOB・OGの方々、水府流、友情校など様々な団体からの支援の下で成り立っております。ともに発表会を成功することができるよう、今後ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

レジャーランドとしての稲吟会

第52代副幹事長 根間博之（社学2）

昨今、「大学のレジャーランド化」が取り沙汰されております。大学生が学問をしなくなったと憂慮しておられる先輩方もいらっしゃるでしょう。しかし私は、稲吟会は間違いなくレジャーランドであると考えております。気の置けない仲間達と、時には詩吟の練習に励み、時には酒に酔う。このような青春を謳歌できる稲吟会をレジャーランドと呼ばずして何と呼びましょうか。

しかし、このレジャーランドは人を墮落させる類のものではありません、ストイックさを要求するものと考えます。会員が望んでやっていることとはいえ、練習はしばしば厳しさを伴います。外部団体との交流は礼節をわきまえた行動を必要としますし、無論稲吟会内でも最低限の礼儀が要求されます。

一年生も入会して四ヶ月が経ち、様々なことを経験してきました。彼らの顔つきは、やはり四月と比べ大きく変化したように思えます。それはやはり稲吟会が「本気」で遊ぶ団体であるからだと考えます。彼らは時には厳しく叱責されながらも遊び続け、成長してきました。今年の一年生は練習・コンパともに参加率の高さが特徴です。これは、彼らが稲吟会の「本気」の遊びの風潮に馴染んでくれたからだと思えます。

稲吟会は厳しく、辛く、そして楽しいレジャーランドです。この素晴らしい会をさらに発展させるべく、日々ストイックに遊び続けたいと思えます。諸先輩方、ご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

稲吟会と学生生活

宮川朋子（文構¹）

私は稲吟会の雰囲気が高校のときの部活に似ていて、いごちが良いと感じたので、稲吟会に入会しました。会員がみんな個性的で、そして仲良しなところがとても好きです。

そして、私の現在の大学生活は、稲吟会が中心となっています。まず、私の学部は基本にお昼過ぎの3限から授業が始まるので、昼の詩吟練習で学生会館に集まるところから私の1日は始まります。学生会館で練習をして、昼ごはんをおごってもらい、その後に授業に行きます。そして授業が終わったら部室に行き、会員と喋ったり、ゲームをしたりしながらまったり過ごします。

詩吟と剣舞について。詩吟はもともと歌うことが好きなので取り組みやすかったです。剣舞は、初めはとても嫌でした。なぜかという、体の動かし方がよく分からなくて、抜刀ができなかったからです。でも今は練習の甲斐あって抜刀ができるようになり、やる気が出てきて楽しいです。先輩には「戦隊モノに憧れて真似している子供みたい」と言われます。早く先輩のように吟じ、舞えるようになりたいです。

稲吟会に入って

大田和弥（政経1）

「古典芸能に興味ない？」

それが僕と稲吟会との出会いでした。新歓コンパに参加し、稲吟会の雰囲気、居心地のよさを肌で感じて、稲吟会に入会することを決意しました。

初めての練習見せのときは、自分に本当に詩吟ができるのかと不安になりました。でも、先輩方の優しく丁寧なご指導のおかげで、今はなんとか形になってきました。そのおかげで、今は詩吟が楽しくて仕方がありません。もっともっと腕を磨き、来年再来年には後輩たちに立派な指導ができるようになりたいです。

稲吟会に入って一番良かったと思うこと。それは、毎日の昼練習や100キロハイクや、早慶戦などの様々なイベントを通じて、優しい先輩、楽しい同輩、たくさんの仲間に出会えたことです。親元から離れての生活は、最初は寂しくて仕方がないだろうと思っていました。しかし、稲吟会の皆さんのおかげで寂しさは微塵も感じませんでした。僕にとって稲吟会は東京でできた新しい家族です。



OB会名簿の更新について：情報をお寄せください

今年はOB会名簿を発行する年にあたります。事務局でも12月の発行を目指して、会員の皆さんの住所等の情報について確認作業を進めております。ご住所や勤務先について変更等ありましたら、高橋 優（平4、meibo@togin.org）までお知らせください。ご同期や近い代の方で、最近OB会からの配送物が届かなくなった方がいらっしゃる場合にも、ぜひ情報をお知らせください。なお、年会費の滞納が2年以上ありますと、名簿が送付されません。滞納されている方は11月末までに1年以上の年会費をお納めください。

¹ 文化構想学部

早稲田大学創立 125 周年に際しての寄付について

大学からのDM等ですすでにご存知のことと存じますが、母校早稲田大学は、1882（明治15）年の創立より数えて本年で125周年の記念すべき年を迎えることとなりました。「125」なる数字は、創立者大隈重信侯の「人生125年説」に由来するものであり、大学にとって非常に重要なものとされています。この大きな節目にあたり、稲吟OB会としてもOB・OG有志の寄付を募り、OB会会計からも拠出をする形で20万円規模の寄付を検討しています。今秋の定例総会で承認をいただいた上で年内の寄付を考えております。この件についてご意見、ご異議などがあれば、遠慮なくお寄せください。

なお、団体寄付においては総額20万円以上で大隈講堂内にその名を刻することになります。秋の創立式典へ向け目下修築中の大隈講堂において最後の大きなイベントを催したのが、ほかならぬ私どもの創立50周年記念大会でございました。そうした誇りと感慨を後輩世代に伝える意味でも、此度の提案を実現させたいと考えております。皆様のご理解を切にお願いする次第です。

大学の創立125周年記念事業については、下記ページをご覧ください。

<http://www.waseda.jp/waseda125/>

年会費の納入にご協力ください

会員の皆様には、年会費（5,000円）の納入をお願いしております。ご協力誠にありがとうございました。なお、まだお支払いでない方は下記の口座にお納めください。なお、2年以上お振込の確認が出来ない場合、名簿・会報の郵送サービスが停止されます。

各位の会費納入実績につきましては、稲吟OB会事務局会計幹事の板倉真介（平10）にお問合せください。

お問合せは往復はがき、もしくは電子メールにてお願い致します。電話でのお問合せはご遠慮ください。

- ・往復はがきでのお問合せの際には、ご自身の氏名、住所、卒業年度を返信面にご記入ください。
- ・電子メールでのお問合せ方法 kaikai@togin.org 宛てに氏名、住所、卒業年度をお知らせください。お答えできるのは、お問合せを頂いたご本人の納入実績に限ります。

口座名： 早稲田大学稲吟OB会 振替 00150-7-61740
年会費 5,000円（今年度より減額されました）

恐れ入りますが振替手数料はご負担ください。2年度分（10,000円）以下なら1口70円です。

～ 担当者から ～

今回は平成年代のOB・OGの方の元気なお声を集めました。仕事や家庭で日々奮闘する姿に、早稲田魂が世代を超えて受け継がれているのを感じました。早稲田大学は創立125周年を迎えましたが、稲吟会も「稲吟会の魂」を60年、70年と受け継いでいきたいですね。（たかはし）